

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地域再生論 (Community Revitalization)		授業コード	L010801
担当教員名	島岡 成治、杉浦 嘉雄、池畑 義人、吉村 充功		科目ナンバリングコード	L30108
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特にありません。			
受講心得	具体的な事例を多く扱うため、外部講師(ゲストスピーカー)による紹介があります。講義に遅刻、欠席することなく毎回出席して下さい。			
教科書	特にありません。			
参考文献及び指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドと魅力あるまちづくり (学芸出版社) 佐々木一成 著 ・地域再生学 (晃洋書房) 湯浅良雄・山本修平・崔英靖 編著 ・地域創生への挑戦 (有斐閣) 清成忠男 著 			
関連科目	地域経済論、日本建築史、都市計画、環境・地域創造演習、NPO・NGO論、ランドスケープ			

授業の目的	<p>少子化・高齢化が進む日本では、住民の生活が立ち行かなくなりつつある地域が地方を中心に顕在化しています。そのため、豊かな自然や伝統文化、地域の特性を活かした地場産業など、これまで魅力あふれ、独自性を発揮してきた地域が衰退する事態を引き起こしています。これから建築分野で活躍する皆さんは、これまで以上に地域の実情、特性を理解した上で、地域に必要とされ、地域再生に役立つ建築物を構築、保全していく能力が求められます。本講義では、地域づくりの成功事例など具体的な取り組みを中心に理解し、これからの建築学の基礎となる地域再生の考え方を修得することを目的とします。</p>
授業の概要	<p>本講義では、地域再生の手法を体系立てて学ぶだけでなく、実際に地域再生に携わる方々や教員が関わった地域での体験談、成功・失敗体験を聴く機会を多く設けます。体系と具体例を学ぶことで、地域再生に共通するキーを知り、建築学の視野を広げていくようにします。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：地域コミュニティの現状と地域再生(担当:島岡) ■地方分権 ■市町村合併 ■高齢化 ■限界集落	地域再生の現代的課題についてのレポート作成 60分
第2週：地方経済の現状と地域再生(担当:吉村) ■地場産業 ■6次産業化 ■地域振興	地方経済の現状についての課題演習 60分
第3週：地域ブランドと特産物ブランドへの取り組み(担当:吉村) ■ブランドとは ■地域ブランドの種類 ■「関あじ関さば(大分市)」を中心に	地域ブランドについての課題演習 60分
第4週：観光ツーリズムへの取り組み(担当:吉村) ■「由布院のまちづくり(由布市)」を中心に	観光ツーリズムについての課題演習 60分
第5週：アートによる地域づくり(担当:島岡) ■アートとは ■日本各地の例 ■「大分市」と「別府市」	アートによる地域づくりについてのレポート作成 60分
第6週：景観形成(担当:島岡) ■景観法と景観条件 ■「豆田町と小鹿田焼の里(日田市)」 ■景観とは—いくつかの景観論争	景観問題についてのレポート作成 60分
第7週：歴史的まちづくり(担当:島岡)	

■歴史的町並みの保存 ■「昭和の町(豊後高田市)」		歴史的まちづくりについてのレポート作成 60分
第8週：地域資源の現状と地域の防災(担当:池畑) ■温泉と再生エネルギー及び地域防災		温泉と再生エネルギー及び地域防災について課題の演習 60分
第9週：地域資源の現状と地域環境(担当:池畑) ■里山の保全と森里海の連携		里山保全と森里海の連携についての課題演習 60分
第10週：防災と環境を両立させた地域再生(担当:池畑) ■「多自然型川づくり」を中心に		防災と環境の両立に関する課題演習 60分
第11週：新しいツーリズムへの取り組み(担当:杉浦) ■豊後大野市のジオパーク活動を中心に		ジオパーク等新しいツーリズムについての課題演習 60分
第12週：生物多様性の保全への取り組み(担当:杉浦) ■竹田市(岡本地区)の環境・地域創生活動		生物多様性の保全の取り組みについての課題演習 60分
第13週：「新しい公共」による地域づくり(担当:吉村) ■NPOによる地域づくり		NPO等新しい公共による地域づくりについての課題演習 60分
第14週：協働による地域づくりと地域再生(担当:杉浦) ■住民・行政・NPOの協働 ■「九重のまちづくり」を中心に		協働による地域づくり・地域再生についての課題演習 60分
第15週：魅力ある地域づくりのために(担当:全教員) ■シンポジウム ■住民生活の再生 ■生活・文化 ■創造と活動		魅力ある地域づくりとは何かについての課題演習 60分
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー III:地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	①地域コミュニティ、地域経済、地域資源の現状を正しく理解できる ②地域特性ごとの具体的な地域再生の事例を理解している ③地域再生の手法を正しく理解できる
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	④地域再生の手法を用いて、地域特性にあった地域再生の方法を提案できる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	30点	20点	
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	各担当教員よりレポートを課します。その内容を評価対象とします(10点×4人)。
発表・その他 (無形成果)	